

Song 2: “Song of Responsibilities” 「責任の歌」

ここで、「責任」について話したいと思います。私たちは文化を守り、次世代へ伝えて行く大変な責務があります。

私たちはいつも7世代について話します。それは、どこまで私たちが責任を負うかということです。私たちがいつも話している事を伝えていかなければなりません。何をしているか、何を歌っているか。歌っている歌、その言葉。いつでも7世代先のことを念頭において、行動して行かなければなりません。これは命名の儀式であり、また何がその儀式における責任かということの意味します。

季節についても同様で、常に、春夏秋冬の到来を心に留めおかなければなりません。季節の変わる毎にタバコを贈り、季節の行事を執り行います。命名の儀式の際の決まった歌があります。土に水をやり、木に肥やしをやる時の歌があります。また決まったダンスもあります。歌ごとに違ったダンスです。また、鶏、鷺、鹿のダンスなど動物のダンスもあります。私たちはこれらの歌を習得していなければなりません。それが私たちの責任です。また「鷺の羽根」は、若者あるいは誰にでも与える最も高い名誉で、その人の重大な行為に対して与えるものです。一旦、「鷺の羽根」を受け取ったものは、作法に従ってそれを保管しなければなりません。地面に触れないよう、作法通りに使用し、気をつけて作法を守らなくてはなりません。

もし作法を誤ったら、あるいは「鷺の羽根」が礼装から落ちる事があれば、すべてを中止し、長老がそれを回収します。このように、自分たちの責任を皆が知っているのです。

そこで、この歌、今から私が歌う歌は「責任」についての歌です。かつて多くの人が飢えに苦しんでいた時代がありました。な

ぜなら、人々があまりに怠惰で食べるものが何も無かったからです。それで、皆が集まった時の歌もダンスも非常にスローなものでした。しかし12歳くらいの一人の少年が現れ、これらの歌に合わせて様式にかなったダンスを始めました。たった一人踊る少年を見てメディスンマンは、「責任」という事を考え始めました。そして、歌が終わった後、メディスンマンとクランマザー達は自分たちの責任について話し出しました。それから、責任感が維持されてきました。